



第3セクターの責任はだれがとる

藤原充博 議員

町長 経営責任はトップである社長がとるべき



問 町の第3セクターは、町の出資が100%がほとんどである。各社の代表取締役は町長だ。もし何かあった時の経営責任はだれがとるのか、町長か、業務責任者か。

答 経営責任はトップである社長がとるべき。奥出雲椎茸と農業公社は累積赤字がある。奥出雲椎茸は200人の雇用の場であり、それを守る取り組みに、町のお金を使用する事は、町民の理解がなければならぬ。椎茸と公社は外部の意見も聞きながら将来やっ

ていく必要があるか、いろんな視点から検討、改善策をやる必要がある。

問 議会は第3セクターの経営内容まで深くかわる事ができないが、今後は検討すべきである。奥出雲椎茸は今まで町に多額の寄附をしてきた。しかし、業績が数年前から低迷し、24年度の決算は大変で町も資産の買い取りをしているが、生産者、従業員とも不安に思っている。今後、どのような支援をしていくのか。

答 平成18年度以降、椎茸の単価が毎年落ちてきている。しかし、この事業を始める時の約束で、「市場価格は落ちてても生産農家の買い取り価格は落とさない」という条件約束でエターンしたり椎茸栽培を始めている。また、その差額を会社がずっと負担してきた。町も去年、資産の買い取りをしたが、また2億円近い資産がある。その資産を活用し経営努力をしてほしい。単価も持ち直しつつある。

社会経済状況を見ながら町民の皆さま、議会の理解を得ながら何として守る。町の一般財源だけでなく、国、県の支援を得るよう努力したい。

問 生産者や従業員と会社とのスタンスが違っているのでは、「所懸命、いい物を作っているのもっと頑張らなくてほしい。販売先の開拓、どんな営業をしているのか」などの意見が多かった。販売先の開拓や、加工品開発はどうなのか。

答 生産したものをさばくという事では、さばいている。市場価格の動向の中に巻き込まれている。高い価格を維持できるような営業努力は必要である。加工品開発は全国に競争相手がおもしろい、食の専門家の知恵等も活用し、加工品ができるように業務担当部長に直接伝え指示した。

問 奥出雲椎茸が販売している椎茸醤油の評判が良いが、原料は町外の椎茸である。町内のほだ木椎茸、原木椎茸、大豆を

使用した安全安心な商品を開発してほしい。農業公社は今後赤字をどうするのか、根本的な対応はどうか。

答 どうあるべきか専門家や関係者から成るプロジェクトチームを早急に設置し議論していく。ピオニの残りの債務8千400万円についても早急に町として責任を持って整理したい。

※公社やピオニの件、仁多地区からみれば、開発公社も含めて、また、旧横田町の尻ぬくいかと思う。助け合いながらもきちんと責任を整理しなければならぬ。

